

# 長畝ふるさと通信

【2013年8月号】

## ■ 夏はいずこへ？…紺碧の空はどこへ行った



やっと梅雨が明けたのが8月6日、それ以降も気温は30度を超えるものの、すっきりとした青空を見ることはほとんどありませんでした。毎日、毎日むせかえるような酷暑の中、ただひたすらに田んぼの畦草刈りに没頭していました。いつもなら汗だくになりながらも一服のそよ風が心地よく体をすり抜けていくのですが、今年の夏はいつまでたってもどんよりとしており、気持ちも晴れ晴れとはいきません。日照不足は稲だけではなくボクたちの体にまで悪影響を及ぼしています。



そんな中、8月下旬には恒例の「クサネム」取りです。長雨と日照不足で稲の草丈は例年より高く、胸のあたりまで伸びている田んぼも珍しくありません。「クサネム」は稲と一緒に刈り取ると黒い豆状になり異物混入となるため、田んぼをくまなく歩いて1本も残さず抜き取っていきます。

草丈が異常に伸びた田んぼでは、雨で濡れたモミの重さに耐えきれずご覧のように稲が倒れてしまい、「ミステリーサークル」のようになってしまったところも散見されます。こうなるとコンバインでの刈り取りが難しくなり、作業効率が格段に落ちてしまいます。このように異常気象の影響は田んぼのあちらこちらに出ています。これで台風でも来ようものなら…完全にアウトです。助けて…



### ■ 8月の生き物調査

8月4日、今年2回目の生き物調査をしました。夏休みだったこともあり、大勢の子供たちも参加してくれました。右の写真はアオモンイトトンボの交尾の様子です。このトンボは水辺やビオトープの近辺に生息しており、絶滅危惧種に指定する県もあるのだとか。このほかにもコオイムシやタイコウチなどの水生昆虫やメダカの大群を見ることが出来ました。また、クモの調査では20株の稲に網を張る(造網性)のクモと走り回る(徘徊性)のクモの数を調べました。クモはカメムシなどの稲に害を加える害虫たちを捕食してくれるので、田んぼにとっては大切なガードマンの役割を果たしてくれるのです。



「この虫さん、一生懸命泳いでいるよ」  
「それは泳いでいるんじゃなくて、溺れているんだよ。早く助けてあげようね」  
「これ何ていう名前？」  
「ゲンゴロウだよ」「いいえ、ガムシです」  
「最近トキ見た？」「昨日の夕方、沖の田んぼを2羽飛んできたぞ」

……日常とは違うコミュニティーが生まれています。

## ■ 溶液栽培トマトは…

昨年、初めて取り組んだミニトマトの溶液栽培は猛暑にやられ、散々な結果となりました。2年目の夏は昨年の反省点を克服し暑さ対策も万全を期したはずでしたが…7月から8月上旬までず〜と雨、完全に日照不足です。8月の収穫期に入ってもハウス内の気温は30度を軽く超えるものの、湿度が異常に高く病気も発生してしまい、対応に四苦八苦です。しかしながら今のところ糖度も8度くらいで安定し食味もまずまず。収量的には物足りない面もありますが昨年に比べれば健闘しています。組合員のみなさんと「トマト倶楽部」を結成して早朝5時半から毎日のように生育管理をしてきた甲斐がありました。「共働」の力です！



## ■ お米屋さん交流会



8月25日、今年も長畝のお米を販売していただいているお米屋さんとの交流会を行いました。今回は関東方面から6件、関西方面から3件、はるばる沖縄から1件、合計10件のお米さんが来島されました。田んぼの視察ではそれぞれが今年の稲の生育状況を熱心に質問され、施設見学においては一昨年から導入した「玄米色彩選別機」を興味深く見られていました。意見交換会ではこれからの米販売戦略や消費者から

支持されるお米づくりなどについて議論を深めました。全国的に米の消費が減り続け、TPPをはじめ農業情勢がますます厳しさを増す状況の中、日本人の主食であるお米が最終的に生き残って行くには「食味が一番」であることが確認されました。高齢化とともに後継者不足は深刻さを増し、コメ消費の低迷はますます価格を下落させていく中、頑張りが報われるのは「美味しかった」の一言に尽きるということでしょうか。これからも皆さんから支持されるお米作りに頑張りたいと思います。夜の懇親会では地元かあちゃんたちの手料理を振る舞いました。「佐渡の料理は素朴で美味しい。でもその料理をいっそう引き立てるのは自然の空気やそよぐ風なんだなあ〜」…都会の方々のお話でした。佐渡のありがたさがあらためて心に染みた晩でした。もっと大勢の人々に佐渡へ来ていただいて、佐渡を感じてもらいたいと思います。

皆様、ぜひ「佐渡へ！」お待ちしております。